

NISSIN REPORT

第59期 株主通信

2006年4月1日から2007年3月31日まで



自由を掴め。



日清食品株式会社



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第59期(2006年4月1日から2007年3月31日まで)株主通信をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

経営の基本方針

当社は「食足世平(食足りて世は平らか)」の企業理念の下に、新しい食の創造・開発を通じて、人々の生活に喜びをもたらすことを会社の使命としています。インスタントラーメンのバイオニア企業として、これからもすべての国と地域で、すべての人々に満足していただけるような製品開発・技術開発を進めます。顧客第一のマーケティング政策を掲げ、人々の健康に貢献します。また、グローバルな競争構造の中でブランド戦略をより一層強化し、ゆるぎない経営基盤を築きながら、企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努めます。

中長期的な経営戦略

①インスタントラーメン事業の拡充と市場の活性化

当社製品の主なターゲットである若者層の人口は、少子・高

齢化によって減少しています。一方、消費者の嗜好は多様化しており、プロダクトフルラインナップ戦略を実現できている点は当社の強みであり、更に高付加価値製品や健康に重点を置いた製品を開発していきます。

また、販売戦略としては、流通との包括的協働によるオーダーメイドカテゴリー管理により消費者価値の変化に対応できる「カテゴリートップマネジメント」を推進し、新たな営業力を構築します。

「チキンラーメン」「明星チャルメラ」「カップヌードル」等の主力製品の基盤をより強固にし、今日まで培ってまいりました技術力を活かし、お客様にとって魅力を備えた価値ある製品の開発・改良に努め、新たな需要創造に取組むとともに安定的な成長路線の構築に努め、安定的かつ長期的なキャッシュ・フローの創出を図ります。

②新たなコア事業育成のための取組み強化

菓子・乳酸菌飲料・外食事業など、食と健康をキーワードに食の楽しさを演出する製品戦略を構築し、すべてのバリューチェーンでの連携を強化し、競争力を強化するとともに、お客様の期待に応える新たな価値を創造していきます。グループ内で製品開発や製造、営業面での連携を強化し、画期的な製品開発や先進的な営業活動を実現し、競争優位な事業体制づくりを行います。

また、従来の事業領域にとどまらない健康食品という製品提案を実現するため、健康食品営業課を新たに設置し、健康食品を重点領域と位置付け、事業基盤の強化を図ります。

③海外事業の拡大

海外におきましては、日本で生まれ、世界食となったインスタントラーメンのバイオニア企業として、すべての国と地域の人々においしさと喜びを提供していく世界戦略を推し進め、常に事業構造、製品構成、人員配置などあらゆる面で見直しを図り、国内だけでなく世界有数の総合めんメーカーになるためにより強い事業体へ進化させていきたいと考えます。一方、より

高品質の原材料をより安く購入するため、当社の海外ネットワークを活かして国際的な資材調達を進めてまいります。世界最大のインスタントラーメン消費国として成長を続ける中国においては、「ものづくり」を基本としたノウハウを強みとして、日清ブランドとローカルブランド双方の成長による事業基盤の強化と収益性の向上を図ります。

④コスト競争力の強化

お客様にご満足いただける製品を、より低コストで作りができることが企業競争力には不可欠な要素と考え、開発・調達・生産・販売に亘るすべての部門におけるシステム・機能の見直しを包括的に実施し、一段の合理化・効率化に取り組み、利益重視の経営の浸透に注力します。

会社の対処すべき課題

①安全・安心への取組み強化

当社は食品メーカーとして法令遵守を徹底し、お客様に安全・安心な食品を提供していくことを使命と考えています。品質管理体制としては、食品の安全性について厳しくチェックする専門組織として「食品安全研究所」を設けています。さらに上海に設立した「日清(上海)食品安全研究開発有限公司」もその一つであり、中国から調達されるすべての原材料の安全性チェックを短時間に行っています。

CODEX規格(国際食品規格)が定められ、名実ともに「世界食」となったインスタントラーメンのバイオニア企業である当社は、今まで以上に「安全・安心のおいしさ」「信頼のおいしさ」を追求する「食の安全・安心の戦略化」がこれからの食品事業の展開におけるキーワードになると考えます。さらに、国内の自社工場及び食品安全研究所で品質マネジメントの国際規格ISO9001を取得し、海外の工場でもISO9001をベースとした品質管理体制を整えています。

②環境への取組み

環境問題につきましては、環境の保全と資源の節約に配慮し

た企業活動に取り組み、自然環境との共生を図ります。これまでに、国内外19事業所において環境マネジメントの国際規格ISO14001を取得したのをはじめ、環境保全コストを定量的に把握するために、環境会計を導入し公表しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2007年6月

代表取締役社長

岩井宏基

目次

● 株主の皆様へ	1p
● 財務ハイライト(連結)	3p
● 営業の概況	4p
● 新製品のご案内	8p
● 特集	11p
● 連結決算の状況	15p
● 単独決算の状況	17p
● トピックス	18p
● グループ企業の活動	19p
● 会社データ	21p
● 株式の概況	22p

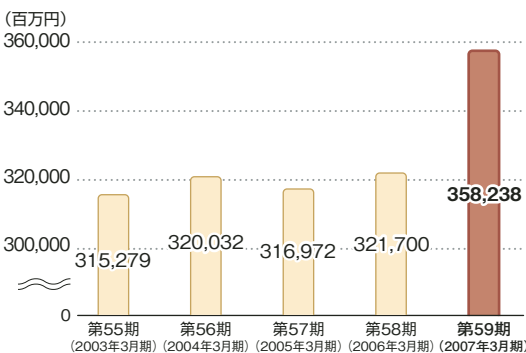
財務ハイライト(連結)

財務ハイライト(連結)

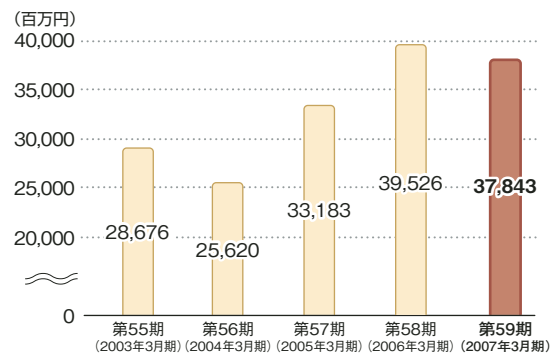
	第55期 (2003年3月期)	第56期 (2004年3月期)	第57期 (2005年3月期)	第58期 (2006年3月期)	第59期 (2007年3月期)
売上高(百万円)	315,279	320,032	316,972	321,700	358,238
経常利益(百万円)	28,676	25,620	33,183	39,526	37,843
当期純利益(百万円)	14,422	14,050	16,611	15,388	18,968
1株当たり当期純利益(円)	115.65	113.61	134.36	125.09	156.12
総資産(百万円)	331,994	343,644	361,104	366,801	410,407
純資産(百万円)※1	233,707	244,439	258,138	263,199	288,476
自己資本当期純利益率(ROE)(%)※2	6.2	5.9	6.6	5.9	7.0

※1 会社法の施行に伴い、当期より「株主資本」を「純資産」に名称変更し、「少数株主持分」を含んだ数字を掲載しております。
 ※2 同様に「株主資本利益率」を「自己資本当期純利益率」に変更しております。

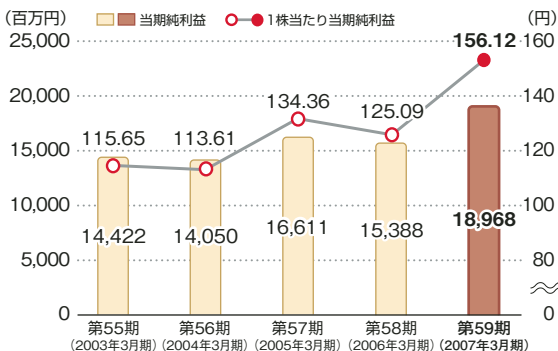
売上高



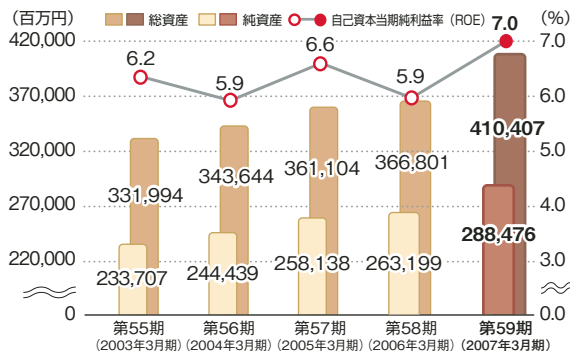
経常利益



当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・純資産・自己資本当期純利益率(ROE)



営業の概況

営業の概況

事業の経過及びその成果

当連結会計年度のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が、出遅れていた個人消費へ波及する兆しを見せ始めました。停滞気味であった個人消費動向は徐々に持ち直しており、長年に亘るデフレから脱却するための環境がようやく整い、景気は緩やかな安定成長の軌道を描き始めています。

このような中、国内の即席めん業界を取り巻く環境は、少子・高齢化の進行に伴う若年ユーザー層の減少という構造変化や多様化する小売流通業界の廉価販売、周辺業種との厳しい競合などにさらされており、即席めんメーカー各社は、消費者のニーズを捉えた新製品の開発・発売による市場でのシェアアップに活路を見いだそうとしています。

当社では、消費者から信頼をいただける安全・安心な製品の供給を基本に据え、独自に開発した残留農薬・動物用医薬品の検査システムにより、使用原材料の安全確保に努めています。また、当期には、消費者の多様化するニーズへの対応をより高めていくために、明星食品株式会社を子会社化し、海外も含めた消費者層の幅広いニーズを満たす魅力的な製品提供を可能としました。その他、環境配慮型の詰め替え用製品として「カップヌードルリフィル」シリーズを新発売し、新しい食スタイル、食シーンを提案しました。

当期の販売状況としては、発売35周年の「カップヌードル」、発売30周年の「日清のどん兵衛」「日清焼そばU.F.O.」の夏季限定周年記念製品を販売するなど、主力製品を中心に販売促進を実施しました。その一方で、ブランド価値の維持・向上を目的とした販売戦略展開や暖

冬の影響など売上減少要因もありましたが、当期から明星食品が新たに連結子会社に加わったことにより、国内の即席袋めん、カップめんの両カテゴリ共に増収となりました。また、北米市場では高価格帯の「CHOW MEIN」「Souper Meal」が年間を通じて消費者の支持を受け、売上を伸ばしました。

チルド・冷凍食品では、北米の冷凍食品子会社の売却という減収要因はありましたが、チルドの「日清焼うどん」が、また、冷凍では電子レンジで簡単調理の「冷凍日清スパ王」と高級具付きめんの「冷凍日清具多」が売上を伸ばし、当期から明星食品製品の売上が加わったこともあり、両部門合計では増収を確保しました。

その他の事業では、シリアル食品の「シスコーンBIG」及び特定保健用食品の乳酸菌飲料「ビルクル」が好調な売行きを示しました。さらに、当期から外食事業が加わったことにより、当部門は増収となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績としましては、売上高は、明星食品が新たに連結子会社に加わったことが寄与し、3,582億38百万円(前期比11.4%増)と前期を大きく上回る結果となりました。利益面では、退職給付関係費用の減少もあり営業利益が337億34百万円(前期比5.5%増)となりました。経常利益では有価証券売却益の減少等による営業外収益の減少により378億43百万円(前期比4.3%減)となりましたが、当期純利益については、固定資産に係る減損損失が減少したことなどにより、189億68百万円(前期比23.3%増)となりました。

部門別売上高の状況

即席袋めん類



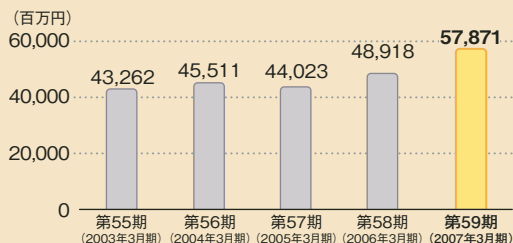
「チキンラーメン」 「日清のラーメン屋さん」 「明星チャルメラ」

当期は「チキンラーメン」「日清のラーメン屋さん」などの主力製品が前期の売上を下回りましたが、当社グループ入りした明星食品の「明星チャルメラ」「明星中華三昧」などが新たに加わったこともあり、国内市場で増収となりました。海外市場についても米国を中心に既存品が好調な売上を記録しました。

この結果、即席袋めん類の売上高は前期比18.3%増の578億71百万円となりました。



即席袋めん類の売上高推移



カップめん類



「カップヌードル」 「日清のどん兵衛」 「明星一平ちゃん夜店の焼そば」

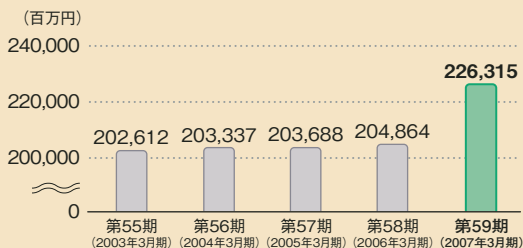
国内市場では、発売周年記念を迎えた「カップヌードル」「日清のどん兵衛」「日清焼そばU.F.O.」の夏季限定辛口製品を発売し好評となりました。しかしながら、主力既存品についてはブランド価値を維持・向上するための販売戦略を優先した結果、売上が減少しました。

このような中、消費者のニーズを捉えたノンフライめんの「日清麺職人」や、めんの多さが特長の「日清デカ王」が年間を通じて好調な売上を持続しました。また、当期に発売した低カロリーの「日清野菜スープヌードル」は健康志向の消費者から強い支持を受け、堅調に推移しました。さらに、当期は明星食品の「明星一平ちゃん」「明星一平ちゃん夜店の焼そば」「明星もっち!とワンタン麺」なども加わり、国内市場の増収に貢献しました。

海外市場では、北米において高価格帯の「CHOW MEIN」「Souper Meal」が大きく増収となりました。

この結果、カップめん類の売上高は前期比10.5%増の2,263億15百万円となりました。

カップめん類の売上高推移



チルド・冷凍食品



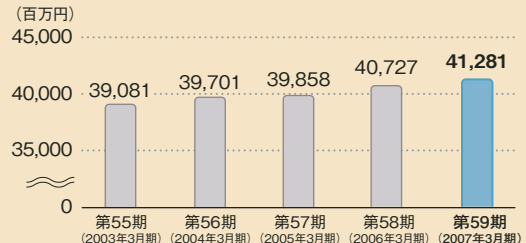
「日清焼そば」 「冷凍日清スパ王」 「冷凍日清具多」

チルド食品では、和風ジャンルの「日清焼うどん」「日清のどん兵衛」などが増収に貢献したことに加え、明星食品製品の売上が新たに加わったことにより、同部門の売上高は前期比16.8%増の161億29百万円となりました。

冷凍食品では、電子レンジで簡単調理の「冷凍日清スパ王」や高級具付きめんの「冷凍日清具多」などが年間を通じて好調な売行きを示し、さらに明星食品製品も売上に加わりましたが、北米子会社の売却による売上減少が影響したため、同部門の売上高は前期比6.6%減の251億52百万円となりました。

これらの結果、チルド・冷凍食品全体の売上高は前期比1.4%増の412億81百万円となりました。

チルド・冷凍食品の売上高推移



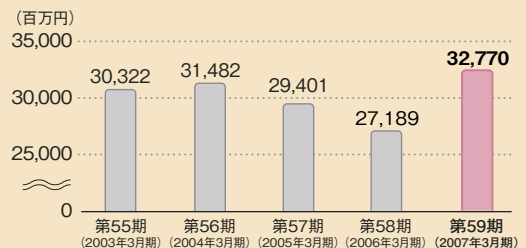
その他の事業



「ビルクル」 「シスコーンBIG」 「外食産業(味の民芸)」

シリアル食品の「シスコーンBIG」及び特定保健用食品の乳酸菌飲料「ビルクル」が好調な販売を持続しました。また、当期から外食事業も加わったことにより、その他の事業の売上高は前期比20.5%増の327億70百万円となりました。

その他の事業の売上高推移



部門別売上高の状況は以上のとおりです。

設備投資及び資金調達の状況

当期の設備投資は、明星食品の新工場建設の他、新製品生産や省エネ対応の設備への投資などを中心に実施しました。その結果、当社グループの設備投資の総額は、61億51百万円となりました。

なお、これらに要した資金は自己資金をもって充当しました。

利益配分に関する基本方針及び配当

当社は、常にグループ収益力の強化に努め、企業価値の向上と株主の皆様に対する適切な利益還元を最重要経営課題と認識し、連結業績や今後の資金需要を勘案しながら、継続かつ安定的な利益還元を行っていくことを基本方針としております。

また、内部留保した資金の用途につきましては、更なる企業価値向上を図るための設備投資、研究開発投資及びM&Aなどの資金需要に備えると共に、余資についてはリスクを勘案しながら効率的に運用してまいります。

上記方針に基づき、今後の株主配当金については、連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続できるよう努めてまいります。

なお、当期の期末配当は、1株当たり15円とし、中間配当35円(記念配当20円を含む)と合わせて年間では1株当たり50円となります。この結果、当期の連結配当性向は32.0%となります。

次期の配当予想につきましては、1株当たり普通配当を20円増配し、年間での1株当たり普通配当を50円(うち、中間配当25円)とする予定です。

今後の見通し

当社グループは、食品メーカーとして法令遵守を徹底し、お客様に安全・安心な食品を提供していくことを使命と考えています。これを受けて食品安全研究所、日清(上海)食品安全研究開発有限公司において、引続き、食品や原材料の安全性について厳しくチェックしていきます。

販売面では、ロングセラーブランドの「チキンラーメン」「カップヌードル」「日清のどん兵衛」「日清焼そばU.F.O.」「明星チャルメラ」など主力製品を核に、多様化する消費者及び流通業界のニーズに対応した新製品も投入し、新たなユーザーの発掘に努めていきます。

海外については、インスタントラーメンのパイオニア企業として、継続して、潜在的な市場を持つ北米と中国での販路の開拓を進め、シェアアップを図ってまいります。



日清食品

カップヌードルからの新提案
楽しく食べてエコスタイル



カップヌードル
リフィルスターターパック

プラスチック製リユースカップ「マイヌードルカップ」と「リフィル(詰め替え用)」各1食をセット。

3月26日(関東1都9県)

カップヌードル
シーフードヌードルリフィル
(詰め替え用)

シーフードヌードルのおいしさそのままに。環境にやさしい詰め替え用。

3月26日(関東1都9県)

カップヌードル
リフィル
(詰め替え用)

カップヌードルのおいしさそのままに。環境にやさしい詰め替え用。

3月26日(関東1都9県)



日清焼そばU.F.O.
スパイシーカレー焼そば

ローストしたカレーフレーバーと10種以上のスパイスをミックス。香りと旨みが際立つスパイシーカレー味焼そば。

5月21日(全国)



日清 担々麺

ごまの香り・旨味をしっかり感じながら、辛味・酸味・旨味・甘みのバランスが絶妙な味わい。

5月7日(全国)

お湯の要らないレンジ調理の
Box型カップめん



日清Chin
ソース焼そば

濃厚で香ばしいソース焼そば。

5月7日
(関東1都9県)



日清Chin
五目焼そば

中華風あんかけソースに五目の具材。

5月7日
(関東1都9県)



日清Chin
スパゲッティ「ボロネーゼ」

牛肉とトマトの旨みが詰まったボロネーゼ。

5月7日
(関東1都9県)

日清食品

チルド製品



四川風
冷し担々麺 2人前

辛味とごま味のバランスの良いたれが、ちぢれ揉みめんとからむ冷し担々麺。

3月1日(北海道・沖縄を除く全国)



なんつ亭
和風豚骨つけ麺 2人前

有名店「なんつ亭」の人気メニューを商品化。豚骨エキスたっぷりの濃厚たれで食べるつけ麺。

2月5日(東北・関東・中部・近畿・中国・四国)



行列のできる店の冷し中華
濃厚しょうゆだれ 2人前

オニオンの粒が入ったしょうゆだれと、特製甜麺醬の2つのたれで仕上げる冷し中華。

3月1日(北海道・沖縄を除く全国)※

冷凍製品



冷凍 日清スパ王プレミアム
プリプリ海老となすのトマトソース

デュラム・セモリナ100%の高温乾燥スパゲティと完熟トマト使用。プリプリ海老となすがたっぷり。

3月1日(全国)



冷凍 日清具多
香醋仕上げの酸辣湯麺

たっぷりの彩り野菜をかき玉でまとめ、酸味と辛味でアッサリ仕上げた酸辣湯麺。

3月1日(全国)



冷凍 日清のどん兵衛
鴨南蛮そば

更科風そばに炭で手焼きした合鴨胸コース肉、長ねぎを合わせた逸品。電子レンジで簡単調理。

3月1日(全国)※

※リニューアル

日清シスコ



カカオグラノーラ

カカオのビターな味わいにまるごとカシスの酸味が効いた、大人のグラノーラ。

4月23日(全国)



香ばしく焼き上げた
焼プリン風味のビスケット

人気の洋菓子「焼プリン」のおいしさが香ばしいビスケットに。

5月21日(全国)

日清ヨーク



レモンクリーミー
リッチヨーグルト

クリーミーなコクとレモンの酸味がマッチしたデザートヨーグルト。

3月26日
(北海道・東北・関東・中部)



ヨーグルトシェイク
いちご

のもヨーグルトとは違ったシェイク感があるいちご果肉入りのヨーグルト。

2月27日
(北海道・東北・関東・中部)

明星食品



明星 チャルメラコレクション
醤油とんこつ 5食パック

コクのある醤油とんこつスープの旨みを一層引き立てるオリジナルスパイス付。

5月7日(全国)



明星 チャルメラコレクションカップ
豚骨しょうゆ

彩り鮮やかで食べごたえのある具材に、別添オリジナルスパイスが付いたタテ型カップ。

5月7日(全国)



明星 チャルメラコレクションカップ
塩とんこつ

とんこつの旨みにイカなどの魚介の旨みを加えたスープに別添オリジナルスパイス付。

5月7日(全国)



明星 もっち!と海老ワンタン麺
旨だし塩味

つるぶりのノンフライ海老ワンタンにしなやかなノンフライめんのすっきりラーメン。

5月21日(全国)



明星 職人の神髓 ロックンロールワン
THE・醤油

「ラーメン大賞」最優秀新人賞の店主が創作したオリジナルメニューがカップめん。

5月14日(全国)



明星 飲茶三味
ワンタン 参鶏湯

ワンタンと食物繊維やミネラル類が豊富な3種の雑穀の入ったカラダにやさしい参鶏湯。

6月18日(全国)

オンラインショップ「日清e-めんShop」

日清e-めんShopは、日清食品が運営するオンラインショップです。

当ショップでは、おなじみの定番製品や注目の新製品はもちろん、ひよこちゃんのキャラクターグッズ、販売地域限定製品といった、近くのお店ではなかなか見かけない製品も数多く取り揃えており、24時間いつでもショッピングをお楽しみいただけます。

日清e-めんShop <http://shop.nissinfoods.co.jp/>

Shopping!



創業者会長 安藤百福逝去

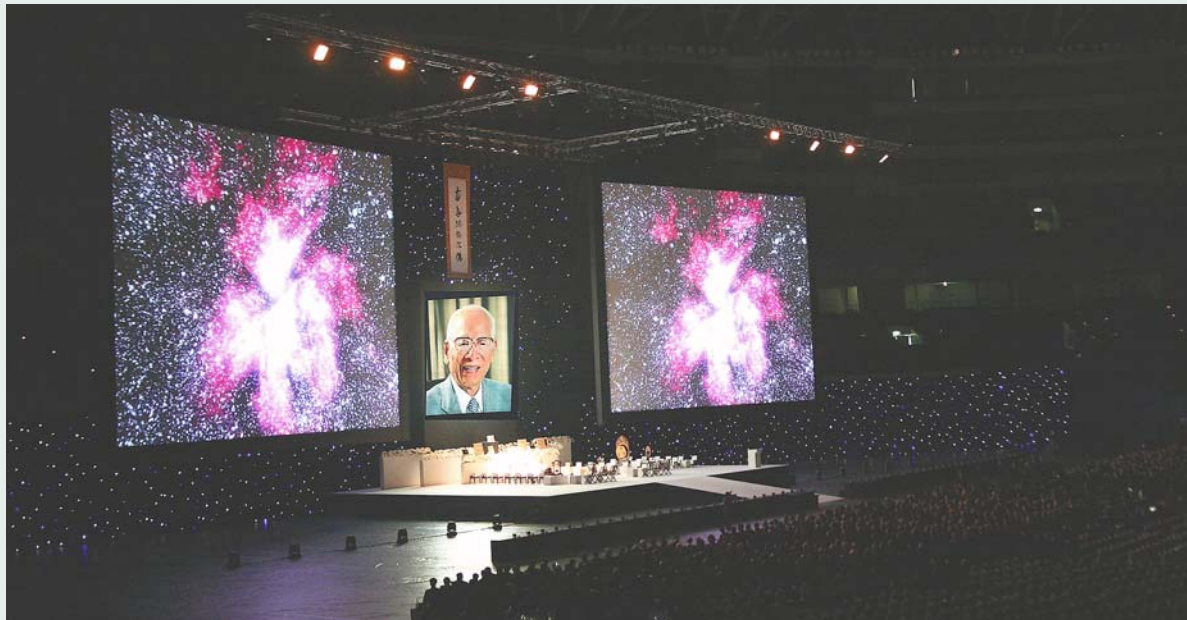
2007年1月5日の当社創業者会長 安藤百福(享年96歳)の逝去に伴い、2月27日、大阪市内の「京セラドーム大阪」にて社葬を執り行いました。宇宙食ラーメン「スペース・ラム」の開発に情熱を注いだ創業者会長の想いに鑑み、宇宙空間をイメージした式場の中で、中曽根康弘元内閣総理大臣に葬儀委員長を務めていただき、ご厚誼のあった政財界のトップをはじめ株主様、一般市民の方々など約6,500名が参列され、冥福をお祈りいただきました。

創業者会長は「食足世平」、「美健賢食」、「食創為世」の理念のもと、1958年に世界初のインスタントラーメン

「チキンラーメン」を発明し、その後、1971年に世界初のカップめん「カップヌードル」を開発しました。「カップヌードル」は、究極の簡便性を備えた20世紀最大の発明とも言われています。

創業者会長が蒔いたインスタントラーメンという一粒の種は、今や世界の国々で年間857億食も消費される世界食となり、世界の食文化に大きな影響を与えています。

創業者会長 安藤百福の訃報は海外でも大きく取り上げられ、米紙ニューヨーク・タイムズは2007年1月9日、「ミスターヌードルに感謝」という社説でその業績を高く評価しました。



2007年2月27日、京セラドーム大阪で行われた社葬には約6,500名が参列

創業者ヒストリー

●生年月日

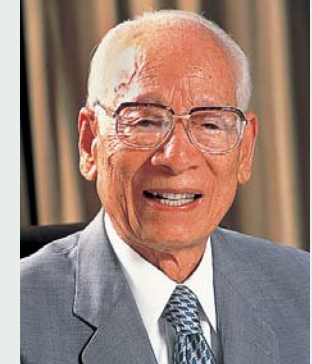
1910(明治43)年 3月5日 誕生
2007(平成19)年 1月5日 逝去(享年96才)

●学 歴

1934(昭和 9)年 3月 立命館大学専門学部経済科修了

●主な職歴

1958(昭和33)年 3月 日清食品(株)を創業、代表取締役社長
1964(昭和39)年 9月 (社)日本ラーメン工業協会(現(社)日本即席食品工業協会)初代理事長(1989年5月から会長)
1966(昭和41)年10月 都カントリークラブ(現 日清都カントリークラブ)設立、理事長
1970(昭和45)年 8月 (財)食品産業センター理事
1970(昭和45)年12月 貿易会議専門委員
(1983年5月まで総理大臣から任命された)
1971(昭和46)年 9月 海外商品別貿易会議議長
1980(昭和55)年11月 (社)関西経済連合会常任理事
1981(昭和56)年 6月 日清食品(株)代表取締役会長
1983(昭和58)年 3月 (財)日清スポーツ振興財団(現(財)安藤スポーツ・食文化振興財団)設立、理事長
1985(昭和60)年 9月 食品産業中央協議会理事(1992年6月から顧問)
1991(平成 3)年 3月 (財)漢方医薬研究振興財団会長
1996(平成 8)年 6月 「食創会」設立、最高顧問(2002年6月まで)
1997(平成 9)年 3月 世界ラーメン協会(IRMA、現WINA)初代会長
1998(平成10)年 6月 (財)いけだ市民文化振興財団会長
2005(平成17)年 6月 日清食品(株)創業者会長



●主な受賞・栄誉

1977(昭和52)年 4月 藍綬褒章
1981(昭和56)年10月 「名誉市民」称号(米国ロサンゼルス市)
1982(昭和57)年11月 勲二等瑞宝章
1982(昭和57)年12月 大阪発明大賞((社)発明協会)
1983(昭和58)年 4月 紺綬褒章
1983(昭和58)年10月 グラン・クルス勲章(ブラジル政府)
1992(平成 4)年 4月 科学技術庁長官賞「功労者賞」(科学技術庁)
1993(平成 5)年11月 農業試験研究一世紀記念会「会長賞」(農林水産省)
1994(平成 6)年 1月 「館友」称号((学)立命館)
1996(平成 8)年11月 名誉博士(立命館大学)
1999(平成11)年11月 名誉市民賞(大阪府池田市)
2001(平成13)年 9月 ティレクナボン勲章(タイ王国)
2002(平成14)年 4月 勲二等旭日重光章
2003(平成15)年 8月 秩父宮章((財)日本陸上競技連盟)
2007(平成19)年 1月 正四位

明星食品株式会社が当社グループ会社に

当社は、明星食品株式の友好的TOB(公開買付け)を2006年11月16日から12月14日にかけて実施しました。さらに、公開買付けに応募されなかった明星食品の株主様に対し、2007年3月31日に当社株式との株式交換を行い、明星食品は当社の完全子会社となりました。

当社と明星食品との資本業務提携は、ガバナンスの向上、海外展開、環境問題や食の安全・安心のための取組みの強化、両社各部門での効率化など、多くのシナジー効果を両社に生み出すことが見込まれます。今後、マーケティング面では、今まで通り競合関係を維持してまいります。それぞれの経営資源を提供しあうことで、市販めん類市場における、より広範な消費者層の嗜好・ニーズを満たす魅力ある製品提供が可能になり、当社

グループの株主価値の最大化に貢献できるものと考えております。

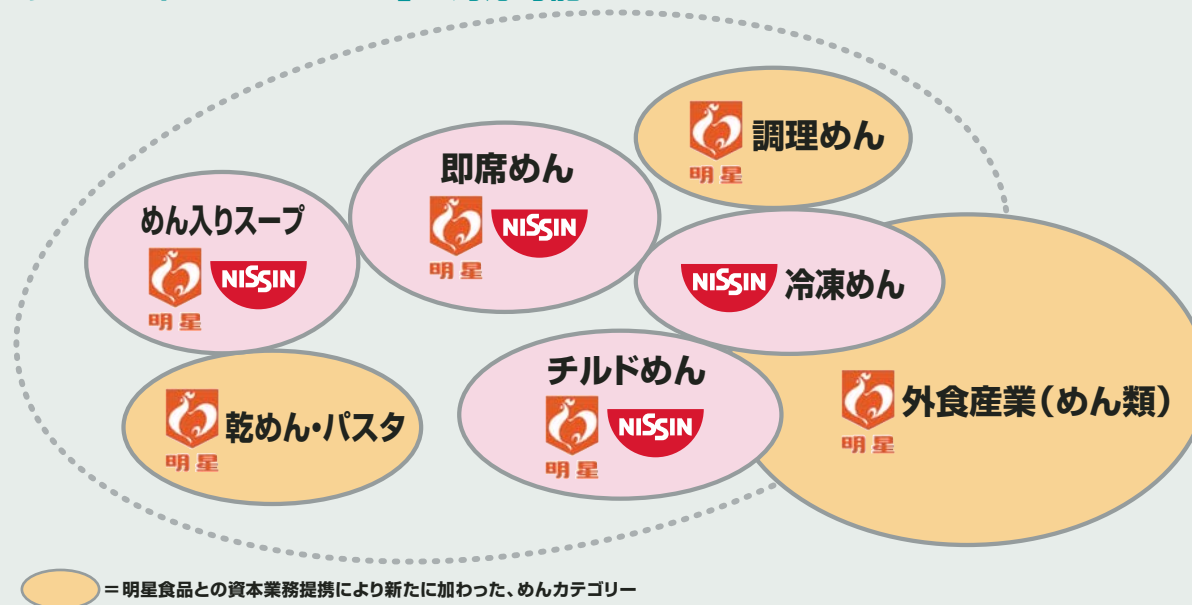


2006年11月15日に行われた共同記者会見で握手を交わす当社代表取締役社長 安藤宏基(右)と明星食品 代表取締役社長 永野博信

シナジーが期待できる領域



すべての「めんカテゴリー」に対応可能



市販めん類市場は、即席めん、チルドめん、冷凍めん、調理めん、乾めんなどのカテゴリーの垣根が失われつつあります。当社はそうした時代を見据え、数多くのロングセラーブランドを持つ即席めんカテゴリーだけでなく、多様化する消費者ニーズに対応するために、チルドめん、冷凍めんカテゴリーへと進出してまいりました。また、「健康」「高級」「美容」といった様々な切り口にも対応しながら、製品のフルラインナップ化を推進し、多くの消費者からご支持をいただいております。

当社は、この多様化する消費者ニーズに応えるために、当社にはない魅力を持ち、同時に当社が進出していないカテゴリーを有している明星食品との資本業務

提携により、真の「総合めん企業」への第一歩を踏み出しました。

明星食品株式会社の概要 (2007年3月31日現在)

商号	明星食品株式会社 (Myojo Foods Co., Ltd.)
設立	1950年3月
資本金	3,143,621,200円
従業員数	328名
本社の所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目50番11号
事業内容	即席めん事業及び外食事業

連結決算の状況

連結決算の状況

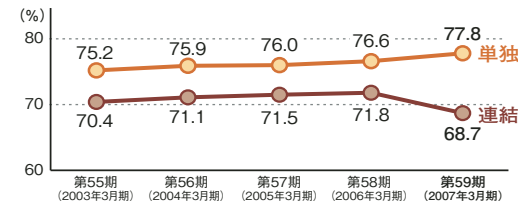
ここに注目! 高水準の自己資本比率

$$\text{自己資本比率(\%)} = \frac{\text{自己資本(純資産合計-少数株主持分)}}{\text{資産合計}} \times 100$$

自己資本比率とは、資産合計に占める自己資本の割合を示し、財務体質の安定性を示す指標です。当社は経営基盤の強化に努めており、連結・単独ともに高い水準の自己資本比率を維持しています。

なお、当期より「株主資本比率」を「自己資本比率」に変更しております。

自己資本比率(%)



新会計基準の適用により、従来の「資本の部」が「純資産の部」へ表示変更され、「少数株主持分」は表示箇所が「純資産の部」へ変更になりました。

なお、当期との比較をしやすくするため、前期の「資本の部」及び「少数株主持分」を組替えて表示しております。

科目	第59期 (2007年3月31日現在)	第58期 (2006年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	159,540	160,496
固定資産	250,867	206,305
有形固定資産	93,633	69,019
無形固定資産	5,022	445
投資その他の資産	152,210	136,840
資産合計	410,407	366,801
負債の部		
流動負債	95,837	78,091
固定負債	26,093	18,975
負債合計	121,931	97,066
純資産の部		
株主資本	277,111	260,626
資本剰余金	25,122	25,122
資本剰余金	49,754	48,385
利益剰余金	216,553	203,797
自己株式	△ 14,318	△ 16,679
評価・換算差額等	4,639	2,572
その他有価証券評価差額金	10,921	9,899
土地再評価差額金	△ 7,532	△ 7,568
為替換算調整勘定	1,251	242
少数株主持分	6,724	6,535
純資産合計	288,476	269,734
負債純資産合計	410,407	366,801

連結株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2006年3月31日残高	25,122	48,385	203,797	△ 16,679	260,626	9,899	△ 7,568	242	2,572	6,535	269,734
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当(※)			△ 1,820		△ 1,820						△ 1,820
剰余金の配当			△ 4,249		△ 4,249						△ 4,249
取締役賞与(※)			△ 22		△ 22						△ 22
当期純利益			18,968		18,968						18,968
自己株式の取得				△ 3	△ 3						△ 3
自己株式の処分				31	31						31
株式交換による自己株式の減少		1,337		2,310	3,648						3,648
土地再評価差額金取崩額			△ 35		△ 35						△ 35
連結子会社増加に伴う増加高			88		88						88
連結子会社増加に伴う減少高			△ 24		△ 24						△ 24
その他利益剰余金減少高			△ 148		△ 148						△ 148
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						1,022	35	1,009	2,067	189	2,256
連結会計年度中の変動額合計		1,368	12,755	2,360	16,485	1,022	35	1,009	2,067	189	18,742
2007年3月31日残高	25,122	49,754	216,553	△ 14,318	277,111	10,921	△ 7,532	1,251	4,639	6,724	288,476

(※) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

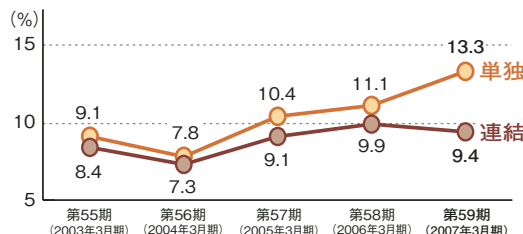
科目	第59期 (2006年4月1日から2007年3月31日まで)	第58期 (2005年4月1日から2006年3月31日まで)
売上高	358,238	321,700
売上原価	175,296	158,209
売上総利益	182,941	163,491
販売費及び一般管理費	149,207	131,512
営業利益	33,734	31,979
営業外収益	4,598	7,853
営業外費用	490	307
経常利益	37,843	39,526
特別利益	785	343
特別損失	5,050	10,057
税金等調整前当期純利益	33,578	29,811
法人税、住民税及び事業税	11,018	11,568
法人税等調整額	3,528	2,900
少数株主利益	62	△ 45
当期純利益	18,968	15,388

ここに注目! 高水準の売上高営業利益率

$$\text{売上高営業利益率(\%)} = \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

売上高営業利益率とは、売上高に対する営業利益の割合を示し、本業における収益力の高さを示す指標です。当社は、今後も高い水準の維持をめざします。

売上高営業利益率(%)



科目	第59期 (2006年4月1日から2007年3月31日まで)	第58期 (2005年4月1日から2006年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,974	26,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,770	△ 20,068
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,421	△ 12,940
現金及び現金同等物に係る換算差額	91	1,500
現金及び現金同等物の増減額	14,873	△ 4,871
現金及び現金同等物の期首残高	61,570	66,326
新規連結子会社増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	251	109
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	5
現金及び現金同等物の期末残高	76,694	61,570

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ3億38百万円増加し、269億74百万円の収入となりました。この主な要因は税金等調整前当期純利益の増加、減損損失の減少及び役員退職慰労金の支払の減少並びに売上債権の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ152億97百万円支出が減少し、47億70百万円の支出となりました。この主な要因は明星食品株式の公開買付けによる支出に対し、その資金調達のために保有する有価証券等売却したこと及び有価証券の取得による支出が減少したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ55億18百万円支出が減少し、74億21百万円の支出となりました。この主な要因は前期に実施した自己株式の市場買付けを当期は実施しなかったため、自己株式売買による支出が減少したことによるものです。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結決算の状況

単独決算の状況

単独決算の状況

科目	第59期 (2007年3月31日現在)	第58期 (2006年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	94,749	127,970
固定資産	241,341	191,125
有形固定資産	42,013	43,486
無形固定資産	106	111
投資その他の資産	199,221	147,527
資産合計	336,091	319,095
負債の部		
流動負債	58,856	58,267
固定負債	15,669	16,435
負債合計	74,526	74,702
純資産の部		
株主資本	258,275	242,420
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,708	48,370
利益剰余金	197,763	185,552
自己株式	△ 14,318	△ 16,625
評価・換算差額等	3,289	1,971
その他有価証券評価差額金	10,822	9,540
土地再評価差額金	△ 7,532	△ 7,568
純資産合計	261,565	244,392
負債純資産合計	336,091	319,095

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
2006年3月31日残高	25,122	48,370	185,552	△ 16,625	242,420	9,540	△ 7,568	1,971	244,392
事業年度中の変動額									
剰余金の配当(※)			△ 1,821		△ 1,821				△ 1,821
剰余金の配当			△ 4,249		△ 4,249				△ 4,249
取締役賞与(※)			△ 20		△ 20				△ 20
別途積立金の積立(※)									
当期純利益			18,337		18,337				18,337
自己株式の取得				△ 4	△ 4				△ 4
自己株式の処分		0		0	0				0
株式交換による自己株式の減少		1,337		2,310	3,648				3,648
土地再評価差額金取崩額			△ 35		△ 35				△ 35
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						1,282	35	1,317	1,317
事業年度中の変動額合計		1,337	12,210	2,306	15,855	1,282	35	1,317	17,172
2007年3月31日残高	25,122	49,708	197,763	△ 14,318	258,275	10,822	△ 7,532	3,289	261,565

(※) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

日清(上海)食品安全研究開発有限公司が本格稼働

2006年11月8日、中国上海市の「日清(上海)食品安全研究開発有限公司」が本格的に稼働を開始しました。同研究所は近年の中国を中心とする輸入原材料や加工製品の使用頻度の増加を考慮して、残留農薬、動物用医薬品、微生物などの食品危害物質に対する品質保証システムの構築を目的として設立しました。

当研究所の稼働によって、当社が中国産の原材料を



2007年3月22日に開催された開業式典には、中国食品科学技術学会 潘理事長(左から3人目)をはじめ、中国政府食品関係者や中国食品業界、マスコミ関係者など70名が参加



日本に輸入する際、事前に検査し合格したものだけを輸入するシステムが構築され、製品の安全性をより早くチェックすると共に、生産計画や販売計画に影響を及ぼすリスクを排除することができます。また、検査業務の他に中国資材工場の工程管理及び技術指導を行い、より高品質な原材料を確保してまいります。

当社では、「日清(上海)食品安全研究開発有限公司」と日本の「食品安全研究所」の連携により、一層強固な品質管理体制を構築して、当社製品の品質確保に努めてまいります。

諏訪利成選手、世界陸上男子マラソン代表に選出

2007年3月12日、当社陸上競技部所属の諏訪利成選手が「第11回 IAAF世界陸上競技選手権大阪大会」男子マラソンの日本代表に選出されました。世界陸上は、オリンピックとFIFAワールドカップに並ぶ世界3大スポーツイベントの一つと称され、日本での開催は16年ぶりとなります。

当社陸上競技部は、創業者会長 故 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと1995年に発足し、1996年のアトランタオリンピックには実井選手が代表選手の1人として出場し、諏訪選手は2004年アテネオ

リンピック男子マラソン日本代表として6位入賞を果たした実績を持っています。

男子マラソンは大会初日の第一種目として、2007年8月25日に行われ、同選手の活躍が期待されます。



■国内関係会社(24社)

- 即席袋めん・カップめんの製造・販売
 - 札幌日清(株)
- 即席袋めん・カップめん用原材料の製造・販売
 - 日清エフ・ティ食品(株)
 - 日清化成(株)
 - 味日本(株)
 - ファインフーズ(株)
- チルド食品・冷凍食品の製造・販売
 - 日清冷凍食品(株)
 - グランフーズ(株)
 他2社
- その他の事業
 - 日清シスコ(株) (菓子等の製造販売)
 - 日清ヨーク(株) (乳製品の製造販売)
 - 日清エンタープライズ(株) (運送業・倉庫業)
 - 宇治開発興業(株) (ゴルフ場経営)
 他4社
- 即席めん・即席めん用原材料の製造
 - 西日本明星(株)
 - (株)ユニ・スター
 - 明星サプライサービス(株)
- チルド食品の製造・販売
 - (株)明星フレッシュ
- その他の事業
 - 明星外食事業(株) (飲食業)
 - (株)玄武 (飲食業)

■海外関係会社(30社)

- 即席袋めん・カップめん等の製造・販売
 - ニッシンフーズ(U.S.A.)Co., Inc.
 - ニッシンフーズメキシコS.A.de C.V.
 - ニッシンフーズKft.
 - ニッシンフーズGmbH
 - 日清食品有限公司
 - 廣東順徳日清食品有限公司
 - 永南食品有限公司
 - 珠海市金海岸永南食品有限公司
 - 上海日清食品有限公司
 - インドニッシンフーズLtd.
 - ニッシン・アジノモト アリメントスLtda.
 - タイブレジデントフーズPub.Co.,Ltd.
 他4社
- 即席袋めん・カップめん用原材料の製造・販売
 - 味楽食品有限公司
 他1社
- 冷凍食品の製造・販売
 - 港永南食品(深圳)有限公司
 他1社
- 即席めんに付随する事業
 - 日清食品(中国)投資有限公司
 他7社
- 即席めん・チルド食品の製造・販売
 - 明星U.S.A.,Inc.
 - シンガポール明星食品 Pte.Ltd.
- …連結子会社
●…持分法適用会社
それ以外の会社は非連結関係会社

取引先



商品の仕入

資材の仕入

商品の仕入

商品・資材の仕入

技術供与

資本提携

当社グループは、即席袋めん、カップめんを主とするインスタント食品の製造・販売を中核として、その他食品事業、物流業など周辺事業へも展開を図っております。

海外においても、現地子会社及び関連会社による即席袋めん、カップめん等の製造・販売やこれら現地法人に対する技術援助などにより業域を拡大しております。

● 明星食品(株)

資材の仕入

会社概要

商号 日清食品株式会社
(Nissin Food Products Co., Ltd.)
設立 1948年9月
資本金 25,122,718,774円
従業員数 1,378名
本社の所在地 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
東京本社の所在地 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
事業内容 即席袋めん、カップめんを主とする
インスタント食品の製造及び販売、
その他食品事業など

主な事業所

< 支店 >

北海道支店 札幌市北区北七条西一丁目1番地2
東北支店 仙台市青葉区一番町一丁目8番3号
中部支店 名古屋市千種区内山三丁目7番3号
中国支店 広島市南区西荒神町1番8号
四国支店 高松市観光通二丁目2番15号
九州支店 福岡市博多区博多駅東二丁目13番34号

< 工場 >

関東工場 茨城県取手市清水667番地1
静岡工場 静岡県志太郡大井川町相川17番2
滋賀工場 滋賀県栗東市下鈿140番地1
下関工場 山口県下関市小月小島一丁目1番12号

< 研究所 >

中央研究所 滋賀県草津市野路町2247番地
食品安全研究所 滋賀県草津市野路町2247番地

役員及び執行役員

代表取締役社長 安藤 宏 基
代表取締役常務取締役 中川 晋
常務取締役 松尾 昭 英
常務取締役 成戸 隆 之
取締役 松村 泰 治
取締役 笹原 研 裕
取締役 松山 康 裕
取締役 柳田 隆 久
取締役 鉄林 修 彦
取締役 小島 順 彦
取締役 小林 栄 三

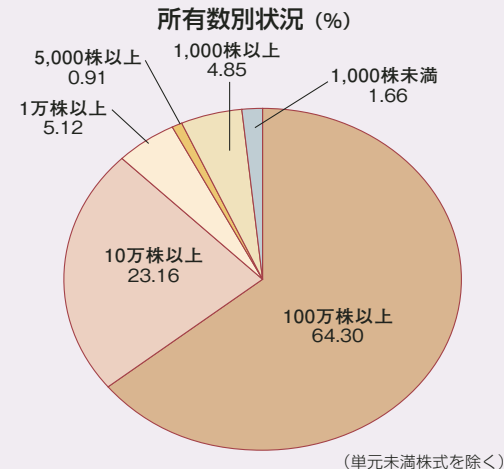
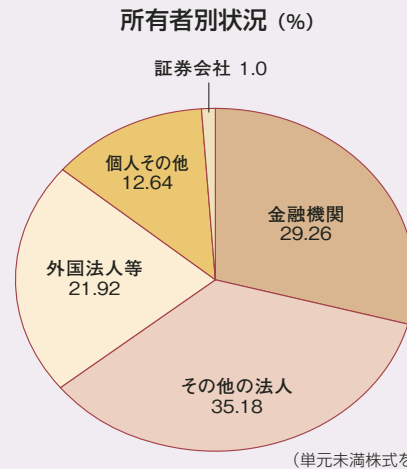
常勤監査役 砥上 隼 人
常勤監査役 寺田 雄 一
監査役* 堀之内 徹 士
監査役* 高野 裕 士

執行役員 赤松 伸 行
執行役員 西尾 正 美
執行役員 山田 敏 広
執行役員 高橋 隆 孝
執行役員 横越 隆 史
執行役員 山東 一 雅
執行役員 服部 秀 樹
執行役員 三浦 善 功
執行役員 宮田 昌 文
執行役員 友政 克 己

※ 社外取締役 * 社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 500,000,000株
発行済株式の総数 127,463,685株
株主数 20,394名
1単元の株式数 100株
単元株主数 18,633名



大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数	出資比率
スチールパートナーズ ジャパン ストラテジックファンド (オフショア) エルビー	121,500 百株	9.53%
財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団	79,043	6.20
三菱商事株式会社	64,000	5.02
伊藤忠商事株式会社	64,000	5.02
株式会社安藤インターナショナル	41,000	3.22
株式会社みずほコーポレート銀行	40,000	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	36,732	2.88
株式会社三菱東京UFJ銀行	36,504	2.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	33,999	2.67
小野薬品工業株式会社	24,604	1.93

(注) 当社は、自己株式 51,972 百株 (4.08%) を保有しておりますが、上記の大株主の状況から除いております。

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日まで

配当金受領株主確定日：期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数：100株

定時株主総会：6月中

基準日：3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。

公告の方法：電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

公告掲載URL
<http://www.nissinfoods.co.jp/koukoku/>

株主名簿管理人：東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：大阪市北区曾根崎二丁目11番16号
みずほ信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部

同事務取次所：みずほ信託銀行株式会社
本店及び全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社
本店及び全国各支店

郵便物送付先：〒135-8722
及びお問い合わせ先 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)

上場証券取引所：東京・大阪(各市場第一部)

株主ご優待：3月31日現在、100株以上1,000株未満
所有の株主の皆様へ6月に900円相当、
1,000株以上所有の株主の皆様へ6月
及び11月にそれぞれ2,250円相当、合計
4,500円相当の自社製品を贈呈。

お知らせ

(1)単元未満株式をご所有の株主の皆様へ

単元未満株式(100株未満)をご所有の株主の皆様は、その単元未満株式と併せて1単元の株式数(100株)となる株式の買増請求、又は単元未満株式の買取請求(当社に対する売却)をすることができます。

なお、お手続きをご希望の方は、左記の株主名簿管理人までお問い合わせ下さい。

(2)株主様ご意見箱電子メールアドレスのご案内

当社は、株主様からのご意見をお電話、お手紙の他に電子メールを利用してお寄せいただくためのご意見箱を設けております。

当社について日頃お気付きの事柄がございましたら、次のメールアドレスまでお寄せ下さい。

なお、お電話、お手紙でもお待ち申し上げております。

①株主様ご意見箱電子メールアドレス

E-mail soumu@mb1.nissinfoods.co.jp

②ご連絡先

〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号

日清食品株式会社 総務部

株主様ご意見係

TEL (06)6305-7711(代表)

FAX (06)6304-1288

E-mail soumu@mb1.nissinfoods.co.jp



何故今、「カップヌードル」がFREEDOM(自由)なのか。舞台こそ23世紀の世界ですが、主人公である少年達の想いは現代につながると考えたからです。いつの時代も「カップヌードル」は若者にとって「自由の象徴」であり、その価値は未来においても不変であって欲しいという想いを込め、23世紀の少年達が様々な葛藤や試練を乗り越えて「本当の自由」を掴みとる物語を繰り広げています。

そして、FREEDOM-PROJECTも2年目を迎え、新たなフェーズに突入します。

NISSIN 日清食品株式会社

本社：〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
TEL (06)6305-7711(代表)

東京本社：〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
TEL (03)3205-5111(代表)

ホームページ：<http://www.nissinfoods.co.jp/>



再生紙(古紙配合率100%)、大豆油インキを使用しています。